

## 「感しや・そんけいの心で成長したい」

小松市立今江小学校4年

小坂 彩芽



「練習できることに感しやしなさい。」

これは私が習っているトランポリンの先生に言われた言葉です。年長の時にとぶことが楽しくて始めた週一回のトランポリン。そのうちに回転やひねりなどの大技を私もやりたいと思い、先生のすすめもあって育成・せん手コースとすすんで今は週四回になりました。

いつも練習の時は母が送げいをして練習の間もついていてくれます。当番以外でもマット入れの補助などもしてくれます。私にはふたりの姉がいて、小さいころからピアノや大雨の日など母が送げいしていたので感しやと、いうより当然のことのように感じていました。だから、あの言葉を聞いた時ハッとしました。親だから当たり前

と心のどこかで思っていたことに気付きました。母がおそかったりするとちこくすると思つて怒つていました。

「お母さんだつていそがしいんだから」

と言われても、怒りはおさまらず練習中も引きずつてすねていたこともありました。先生の一言でそれらのことを反せいし、私の生活をふり返つてみました。食生活・時間そして体力作りなど色々気づかつてきていること。時には感しよう的に泣いたり怒つたりもするけど、はげましの言葉をかけてくれたりほめてくれます。ただ単に送げい・練習だけでなく感しやすることが沢山ありました。もしそれらがなかつたことを想像したら続けれないと思ひました。先生の言葉の意味がわかりました。今は、感しやの気持ちで練習をしています。

そして先生や先ばい・仲間・家族など周りの人にも感しやとそんけいの心を持つべきだとも気付きました。うまくいかない時は、他の方法で教えてくれたり、気持ちちがゆるんでいる時はきびしく指どうしてくれる先生。落ちこんでいると仲間がはげましてくれます。注意されてもイメージ通りにとべない時でも先生や先ばいは経験上のアドバイスをしてくれたり気分転かんにおもしろい話をして気持ちを楽しんてくれます。クラブ内はもちろん大きな大会に行くといえん技だけでなく、人間的にすばら

しい人に出会うこともあります。すごいと思うし私もあのような人になりたいと強く思い、そんけいと感動をおぼえます。

トランポリンという競技を通して、私自身も少しずつ技以外のことも吸収していると思います。自分ひとりの競技と違っていたけれど全くちがいました。とぶことは私ひとりだけど、周りのみんなのおかげで練習や大会に参加できるのでわかりました。その意味で私ひとりのえん技ではないのです。多くの人に助けられているのだから、ありがとうとちゃんと伝えるのが一番ですが、性格的にはずかしくて言えないことも多々あります。だからいつも感しゃの気持ちとそんけいの心を持って、真けんとんで大きく成長したいです。